

# 平成26年度 学校経営計画書

石川県立飯田高等学校

学校長 井下 守

## 1 教育目標

真理を探究し、高い知性と豊かな心を養い、積極・進取の精神をもった明朗快活で実践力のある誠実な人間を育成する。

## 2 中長期的目標

### (1) 学校の現状

- ① 文武両道を校是として推し進め、教育目標に掲げる人材の育成を目指して教育活動を行っている。
- ② 過疎化・少子化の進展により、生徒が一層多様化している。生徒の多様な意識や能力に応じた学習指導と進路指導が求められている。
- ③ 普通科と総合学科併置の特性を踏まえ、生徒の多様なニーズに応える指導・支援体制の構築が求められている。
- ④ 部活動を通して礼儀や規範意識の向上を図り、ボランティア活動や地域行事への積極参加を通じて、地域に密着した学校作りを推進している。
- ⑤ 地元の中学校と連携を取り、中高接続を意識した英語の学習指導の在り方を追求する取組を進めている。

### (2) 生徒に関する中長期的目標

- ① 学びに対する意欲と身構えを自ら整え、キャリア・アップを図り、自分の将来に対して志の持てる基盤を築く。
- ② 基礎・基本となる知識や技能の習得を基に、自らの未来を拓く素地となる思考力・判断力・表現力を身に付ける。
- ③ 礼儀正しく、互いの個性や能力を尊重し合い、故郷に誇りと愛着を持てるグローバルな人材を育成する。

### (3) 教職員、学校組織等の望ましい在り方

- ① 各課、学年、教科間の連携を密接に取り、組織体としての教育力を高める。
- ② 教員一人一人が経営参画意識を持って業務を進め、主任層が積極的に指導・助言や提案を行う。
- ③ 学習指導、部活動や学校行事等において生徒と強く係わりとともに、生徒の支援者として自らの総合的指導力を高める。
- ④ 学校公開や外部に対する適切な情報提供を行い、地域の特性を活用した取組を積極的に進める。

## 3 今年度の重点目標

### (1) 生徒の多様な進路希望に応える学力養成

- ① 教員一人一人が、日常の学習指導及び生徒指導上の実践を通して結果分析力・課題把握力・改善策立案力を高める。
- ② 「学校間連携による教育力向上事業」の取組とその普及により、教員一人一人の学習指導や進路支援の充実を図る。
- ③ 年間を見通した学習指導計画の下で、英数国の習熟度別学習指導を推進する。
- ④ 学習指導において、指導－指導結果の評価－課題把握－改善策立案のサイクルを確立し、高みを目指した進路実現を支援する。
- ⑤ 学習時間調査を継続し、的確な家庭学習や生活実態の把握と情報共有により個に応じた学習支援を徹底する。

(2) 生徒の多様な意識や生活習慣を踏まえた規範意識の育成

- ① 迅速にして的確な生徒の動向把握と対応により安全・安心な学校生活づくりを支援する。
- ② 「登校坂の挨拶」に加え、日常の挨拶やコミュニケーションを通して、言葉による生徒の自己表現力を高める。
- ③ 部活動全員加入を奨励し、「遅刻ゼロの日140日」の目標達成に向けた取組を継続する。
- ④ ICPの取組を継続し、学習環境に相応しい校内美化を推進するとともに、生徒の校舎への愛護の心を育む。

(3) 普通科、総合学科それぞれの特長を生かした教育活動の推進と生徒のキャリア・アップ

- ① 座学や実習の授業による基本的な知識・技能の習得を基礎として、生徒の思考力、判断力、表現力の育成に取り組む。
- ② キャリア教育講演会、ペアレントティーチャーによる職業講話及びインターンシップを通して自立した社会人に必要な素養を身に付ける。
- ③ 総合学科生徒の検定資格取得に向けて、学習指導計画に基づく年間を見通した指導体制を構築する。
- ④ 七尾特別支援学校珠洲分校と協働した、オリジナル商品の販売実習を通して実践的コミュニケーション能力を高める。

(4) 地域に密着した、地域から信頼される学校づくりの推進

- ① 教育活動や学校行事に関する情報発信を積極的に進め、本校に対する地域理解を深める。
- ② 生徒一人一人がボランティア活動に参加できる体制を確立し、地域のニーズに応える活動を積極的に進める。
- ③ 保護者のPTA活動への積極参加により、共同して地域への情報発信ができるよう連携を密に取る。

平成26年度 石川県立飯田高等学校学校評価計画書（最終評価）

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	最終評価	成果と次年度の改善策
1 生徒の多様な進路希望に応える学力養成	① 「教育力向上事業」によって教員の指導改善と生徒の進路意識の向上を図る。	偏差値60以上の層の人数が増加した教科数が A 3教科 B 2教科 C 1教科 D 増加なし	進研記述模試結果7月→1月では、偏差値60以上人数が英9→12、数10→31、国12→17とすべて増加。2年英4→11、数13→8、国14→17と英国において増加している。1,2年の偏差値60以上人数増加教科の平均は2.5教科であった。	B (進路指導課)	1年3教科、2年2教科で偏差値60以上の層の人数が増加した。延べ人数でみると62→96人と増加した。この層の生徒は学びの中心となり、学びを牽引していく生徒である。近年、英数国の力に偏りのある生徒がやや増加傾向にあることが課題である。
	② 難関大入試問題解法研究や外部模試結果の分析と適切な方策により教科指導力を強化し、生徒の学力向上を図る。	国公立志望者82人のうち難関大4%、金沢大12%、国公立大50%の合格目標値を A 達成した B 8割程度達成した C 6割程度達成した D 6割未満だった	国公立大志望者はA組35名、B組42名、C組5名の82名であった。難関大1名(名古屋大)、金沢大13名、国公立大現役38名の合格者数であった。難関大合格は1.2%、金沢大は15.8%、国公立大全般では46.3%の値である。	B (進路指導課)	金沢大学では目標値の12%(9.8人)を超えることができた(13人)。難関大合格者をあと2名、国公立大合格者をあと3名出すことが課題である。新課程入試、2020年の入試改革と大学入試は変化している。入試研究、模試分析、教科指導力向上に一層力をそそぐことが必要である。
	③ 自立的学習習慣を定着させ、進路実現可能な学力を身につけさせる。	各学年のミニマムスタンダードを達成している生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	1月学習時間調査では、1年平日74分・休日94分。2年平日137分・休日163分であった。平日休日を合わせてみると、学年+1時間達成の割合は1年14.4%、2年27.2%であった。	D (進路指導課)	5月調査と比較すると(1年平日70→74・休日85→94、2年平日95→137・休日112→163)各学年の学習時間は増加しているが、基準値を超える生徒の割合が低い。今後、繰り返し、家庭学習の必要性を強く説いていく必要がある。
	④ 教科指導研究会や互見授業を実施し、教科指導力を強化する。	授業評価アンケートにおける英数国の予習実施率が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満  英数国以外の授業に対する興味関心が高まった割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	4段階の2「おおむね予習をやっている」以上の回答をした割合は外国語86%・数学75%・国語67%・3教科平均76%と、80%を上回ることができなかった。  「おおむね興味関心が高まった」以上の回答をした割合が芸術92%を筆頭に、すべての教科で80%以上の評価を得た。	C (教務課)  B (教務課)	予習は学力の定着に欠かすことのできないものであり、学習習慣を身につけさせるための対策を考えていきたい。  各教科ICT活用によって興味関心を引き出す授業ができたことも影響したと考えられる。今後も効果的にICT活用を促す働きかけをおこなっていきたい。
	⑤ 幅広い知識と、情報処理能力を身につけ、公務員試験に対応できる力を育成する。	公務員試験直前の模擬試験において、Bランク以上の生徒の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	公務員試験直前最後の模擬試験では、受験者12名のうちBランクが42%、Cランクが58%であった。結果はこのべ18件の合格。公務員希望者12名中11名が内定した。	C (進路指導課)	本年度の生徒の各分野の得点率と、可否の関係を分析したい。また、模擬試験で、特に得点率の低い人文科学、社会科学の分野の強化を図るため国語科、社会科と問題集や補習の内容を見直したい。
学校関係者評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業の取組を高く評価する。今後とも指導力向上に努めて欲しい。</li> <li>進路意識の低い1年生の状況をどのように打開して行くつもりか。</li> </ul>				
学校関係者評価委員の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業については、年2回の取組として数年来実践している。教師の指導力向上のためにも今後とも継続して行くつもりである。</li> <li>金沢地区に比べ相対的に奥手の生徒が多い。しかし本校での三年間の指導で大きく変化していく生徒が多いのも実際の所である。善処したい。</li> </ul>				

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	最終評価	成果と次年度の改善策
2 生徒の多様な意識や生活習慣を踏まえた規範意識の育成	① 【ICP】の取り組みを周知徹底し、毎日の清掃活動を通して全校生徒が全職員と共に、積極的な環境美化に努める。	生徒の自己評価アンケート(班ごと)から日常の清掃をしっかりとできた割合が A 85%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	各クラスの自己評価の平均が85%を超えたクラスが12クラス中5クラスあり、70%を超えたクラスが6クラスあった。学校全体の平均が80.8%であった。(2/4日現在)	B (厚生課)	校舎全区域の清掃活動や整理整頓の状況を点検することに加え、点数の厳正化によって、生徒の環境美化に対する意識が向上してきた。今年度は、生徒会活動を通して美化委員会の呼びかけなどの効果もあり、生徒自身の自己評価にも厳しさが生まれ、評価採点がやや低めであった。来年度は採点の厳正化、カード記入の徹底を促し、さらに学習環境にふさわしい校内美化の促進に努めたい。
	② 挨拶や服装・交通マナーなど基本的な生活習慣の定着に加え、携帯電話の使用ルール遵守等について指導を徹底する。	生徒の自己評価アンケートと携帯電話のアンケートから日常的に達成できた割合が A 85%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	アンケートの結果から、十分身につけている、守っていると大体身につけている、大体守っている割合が自己評価:全体91%。1年生(94%)2年生(93%)3年生(88%)。携帯電話:全体 79%。1年生(78%)2年生(81%)3年生(79%)であった。2項目の合計では全体が85%であった。	A (生徒指導課)	朝のあいさつ・登校指導により基本的な生活習慣が定着してきている。特に全ての部活動で取り組んだあいさつ運動によりあいさつの質も高まってきた。携帯電話の使用についてもSNS使用5ヶ条を守り使用している生徒が多いが生活習慣の定着に較べるとまだ不十分である。1日の一人当たりの使用時間については昨年度から12,4分(61,8→49,4)減っているが更に改善していかなければならない。
	③ 時間厳守の習慣の確立を目指し、「遅刻0運動」を継続する。	「遅刻0の日」が年間合計で A 140日以上 B 120日以上 C 100日以上 D 100日未満	年間集計の結果(1/30日現在) 遅刻0の日は、140日/162日である。 ※2月・3月の登校日が残り34日あるのでどれだけの日数を上乗せできるかである。 ※昨年度最終は158日/196日	A (生徒指導課)	毎年の継続した取組により、生徒の時間を守る意識が向上してきている。本年度は登校時間5分前には、ほとんどの生徒が登校完了している状況が多くあった。ただ、年間通じて理由なしで遅刻する生徒が一部いるので、個別に指導をしていく必要がある。
	④ 体育授業でのベルスタートを重点とし、服装・挨拶・声だし・迅速な行動など規律ある行動を身につけさせる。	「その日の授業でベルスタートができた日」が年間合計で A 150日以上 B 130日以上 C 110日以上 D 110日未満	年間集計の結果(1/30日現在) ベルスタートができた日は、151日/162日である。	A (体育課)	授業でのベルスタートの取組は、学校全体で共通理解の上取り組んでいるので、定着している。体育の授業では、更衣が伴うので、稀に遅れる生徒がいる程度である。規律ある行動もほとんどの生徒が身につけてきている。
学校関係者評価委員の評価	・登校坂での挨拶のすばらしさは言うまでもないが、本校独自のチューター制度などももっとアピールすべきだ。				
学校関係者評価委員の評価を踏まえた今後の改善策	・生徒たちの登校坂での挨拶に関しては多くの方々から評価頂いている。今後とも生徒たちの自主性を支援していきたい。 ・チューター制度は2年生の取組で進路意識の向上・支援のために全職員で対応している。本校独自の取組でもあり、学校情報としての発信も考えていきたい。				

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	最終評価	成果と次年度の改善策
3 普通科、総合学科それぞれの特長を生かした教育活動の推進と生徒のキャリア・アップ	① 進路希望者及び公務員希望者の進路実現を支援する体制を構築する。 (普通科)	年度末進路状況において、 A進学希望者の90%以上が進路実現した。 B進学希望者の70%以上が進路実現した。 C進学希望者の50%以上が進路実現した。 D進学希望者の進路実現が50%未満であった。 公務員希望者の A50%以上が進路希望を実現した。 B40%以上が進路希望を実現した。 C30%以上が進路希望を実現した。 D30%に満たなかった。	普通科進学希望者A組35名、B組42名、C組31名であった。例年以上に記述力の養成を主眼とした指導を実施してきた。進学先が未定の生徒は2名である。 98.1%の進路実現率である。  公務員希望者については、9名中8名が採用内定。公務員希望者の進路実現率は88.9%であった。	A (進路指導課)    A (進路指導課)	進学希望者108名のうち106名が進学に進路実現した。大学全入の時代でもあり、進路先の確保自体は難しくないが、生徒個々の能力・適性・希望に合致したより志望順位の高い進路先を確保させることが今後の課題である。  8名のうち、第一希望の職種(あるいは同等の職種)で内定を得た生徒が7名おり、実現率は高かった。次年度も、生徒の希望を早急に把握し、それぞれの志望にあった指導を心がけたい。
	② 個に応じた進学指導、公務員指導、就職指導を充実させる (総合学科)	年度末進路状況において、 進学希望者の A90%以上が進路希望を実現した。 B70%以上が進路希望を実現した。 C55%以上が進路希望を実現した。 D55%に満たなかった。 公務員希望者の A50%以上が進路希望を実現した。 B40%以上が進路希望を実現した。 C30%以上が進路希望を実現した。 D30%に満たなかった。 就職希望者が A 年内に100%内定を得た。 B 1月に100%内定を得た。 C 2月に100%内定を得た。 D 3月以降にずれ込んでしまった。	進学希望者には通常の授業だけでなく、補習授業等を通じて実力養成をはかってきた。進学希望者20名全員が進路希望を実現した。  公務員希望者については、希望者3名全員が公務員採用内定。公務員希望者の進路実現率は100%であった。  就職希望者12名は年内に全員就職内定を得た。年内内定率100%である。	A (進路指導課)    A (進路指導課)    A (進路指導課)	推薦入試、AO入試など様々な入試方式を活用して進学希望者の進路実現をはかった。一般入試合格者も2名いた。推薦、AOは時期が早いとため、早い時期から進路実現に向けた取組を開始する必要がある。  3名の全員が、第一希望の職種(あるいは同等の職種)で内定を得た。次年度も、生徒の希望を早急に把握し、それぞれの志望にあった指導を心がけたい。  就職試験に向けて、様々な準備に生徒は、真摯に、かつ積極的に取り組んでくれた。次年度も早期に希望企業を把握し、万全の準備をして就職試験に臨むように指導したい。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	最終評価	成果と次年度の改善策
3 普通科、総合学科それぞれの特長を生かした教育活動の推進と生徒のキャリア・アップ	③ 工業系生徒が次の資格を1つ以上取得するよう指導する。 ・計算技術検定 ・情報技術検定 ・基礎製図検定	各種検定の合格率が A 80%以上 B 70%以上 C 55%以上 D 55%未満 ※(合格者数)/(受験者数)	・計算技術検定 22/22 (100%) ・情報技術検定 9/21 (42.8%) ・基礎製図検定 7/16 (43.7%)  ・工業系全体 38/59 (64.4%)	C (工業科)	計算技術検定は全員合格となったが、情報技術検定、基礎製図検定は例年を下回る結果となった。 それぞれの検定に向けて、年間を通して担当者、補習時期を設定して取り組んだが、十分な成果を上げることができなかった。 他校の取り組みを参考にするなど、取り組みの充実を図る。
	④ 工業系の国家試験の合格者を増やす。 ・第2種電気工事士 ・危険物取扱者試 ・技能士 (シーケンス)	各種検定の合格率が全体の A 40%以上 B 25%以上 C 20%以上 D 20%未満 ※(合格者数)/(受験者数)	・電気工事士 0/20 (0%) ・危険物取扱者 0/5 ・技能士 3/6  ・全体の合格率 3/31 (9.7%)	D (工業科)	電気工事士は、2年生の受験日を10月に変更したが成果が上がらず、合格者は2年、3年共に0であった。 今年度は、電気工事士は2年生全員、危険物、技能士は希望者のみ受験としたが、来年度に向け、受験期、受験体制の再検討が必要である。
	⑤ 学習意欲喚起のための方策として、各種検定・資格取得を推進する。	学年及び系列の目標とする各種検定資格に対する取得率が A 80%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満 ※(合格者数)/(受験者数)	合格率は全体で54.7%。 簿記検定 38/100(38.0%) 情報処理検定 30/101(29.7%) 珠算・電卓検定 114/143(79.7%) ビジネス文書検定 151/228(66.2%) 商業経済検定 28/62(45.2%) 英語検定 9/42(21.4%) の結果である。	C (商業科)	合格率は昨年度より改善されたが、上位検定合格者が少なかった。次年度は簿記検定・情報処理検定の合格率を上げるために、直前の補習対策の充実を図り、合格に向けて生徒の意識を高める指導が必要である。
学校関係者評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定結果について、毎年同じような結果のようだが取組の見直しはしているのか、結果でアピールして欲しい。(結果を出す取組の強化を求める。)</li> <li>・地元就職希望者の決定状況について、進路先はどのような企業か。</li> </ul>				
学校関係者評価委員の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定対策については、抜本的な見直しを図っており、現在、その取組の実践中である。</li> <li>・就職のみならず進学に関しても地元志向が強い。地域を支える人材となって欲しいと願っており、今後とも支援していくつもりである。</li> </ul>				

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	最終評価	成果と次年度の改善策
4 地域に密着した、地域から信頼される学校づくりの推進	① 教育活動や学校行事に関する情報発信を積極的に進め、本校に対する地域理解を深める。	保護者及び地域代表者に対するアンケートの回答が A：広報活動を十分に行っている。 B：まあまあ行っている。 C：あまり行っていない。 D：全く行っていない。	学校評価アンケート(後期)における「情報公開・情報提供」に関するアンケート結果でのA・B評価が92%であった。(括弧内は前期の数値) A:34.6% (33.4) B:57.5% (60.6) C: 7.2% ( 5.4) D: 0.7% ( 0.5)	A (総務課)	A・B評価が92%(前期94%)という結果であった。前期アンケート結果に比べ、A評価が多くなってはいるものの、HPの更新頻度の増加、学校案内パンフレットの刷新等、次年度に向けての課題として受け止め、取組を向上させたい。
	② 学校行事等の内容と広報を工夫し、保護者の積極参加をお願いする。	会員数398名の内、学校行事への参加者延べ人数が A:80%(318人)以上 B:60%(239人)以上 C:40%(159人)以上 D:40%未満	各行事への保護者の参加人数 ・PTA 総会 :92名、・飯高祭合唱 : 37名 ・交通安全街頭指導 : 18名 ・飯高祭一般保護者 :135名 ・教育ウイーク :25名 計307名	B (総務課)	今年度に関しては、保護者の方々の積極的な対応により、設定目標であるA評価達成に限りなく近づくことができた。ただ広報面において、反省すべき点もあることから、次年度に向けてより一層の工夫を凝らし、戦略的に取り組みたいと考えている。
	③ 地元の小学校高学年・中学校を対象に理科実験授業を学期に1回行う	実験内容に興味を持ち、自ら理解を深めるための考察や追加実験をしたいと回答する児童・生徒の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	実験アンケートの集計結果において、追加実験をやってみたいと答えた生徒の割合が100%であった。 今年度実績 松波中、能都中	A (理科)	前年度に引き続き、高い評価を頂いた。自由回答欄でも「実験が楽しかった」「理科が好きになった」等の意見が多く、理科に対する興味関心を喚起できたとともに、飯田高校のアピールにもなったと考えている。次年度に向けてさらに内容を改善していきたい。
	④ 関係諸機関との連携を通して、地域のニーズに応えるボランティア活動への生徒参加を積極的に進める。	ボランティア活動に参加した生徒の人数(実人数)が全校生徒数の A: 50% (219人) 以上の参加数 B: 40% (175人) 以上の参加数 C: 30% (131人) 以上 D: 30% 未満	ボランティア活動に参加した生徒の人数(実人数)は、全校生徒数(438人)の42.2%(185人)であった。	B (生徒会)	吹奏楽部、JRC、陸上部を中心に、昨年度よりは生徒のボランティア意識の向上が見られた。今後も、様々なボランティア活動や、地域行事への参加を奨励し、参加実人数を増やしていきたい。
	⑤ 七尾特別支援学校珠洲分校とのコラボによる「珠洲の実商店」の経営実習を行い、両校連携による地域密着型の学校づくりを進める。	生徒自己評価アンケートにおいて、「お互いを認め合い、協力できた」の回答をした割合が A 80%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満	「珠洲の実商店」に関わった生徒に対するアンケート結果では「お互いを認め合い、協力できた」が90%であった。	A (商業科)	能登空港開港イベントや七尾特別支援学校珠洲分校の分校祭において、協同で販売実習を行うことができた。販売実習以外での交流があるとよい。
学校関係者評価委員の評価	・各課の取組に関して、それぞれ改善・向上させようとしている意欲を感じる。 ・生徒数減少の中、生徒募集の取組の強化を望む。(他地域からの通学生徒に対する交通費等の補助などについてはどのように考えているのか。)				
学校関係者評価委員の評価を踏まえた今後の改善策	・今後とも生徒数確保のための戦略的な生徒募集活動を継続し、明るく、元気で楽しい高校生活を送れるよう支援して行きたい。 ・保護者の負担軽減のために何ができるか、今後の課題として受け止めたい。				

